４．アンケート・モニター調査（１）宇都宮市　まちづくり市民アンケート　概要版

１．回収結果

・標本数が 3,500、回収サンプルが 1,680、有効回収率は 48.0%であった。
・回答者の性別・年齢ともに大きな偏りはない。
・ただし、居住歴については、10 年以上の回答者が全体の 8 割を超えている。
・居住地域は、本庁、姿川、雀宮、豊郷の順に多い。

２．宇都宮市の強みと弱み

１）全体

・宇都宮市の強みとして評価された項目は、「災害が少なく、安心して暮らせる」（全体の 77.7%）、「買い物など日常生活が便利である」（63.0%）、「豊かな自然環境に恵まれている」（59.8%）、「公害が少ない」（58.4%）、「高速道路や幹線道路が整っている」（53.3%）であった。
・一方で、弱みとして捉えられた評価については、「中心市街地に活気がある」（全体の 74.5%）が圧倒的に多く、次いで「電車・バスなどの公共交通機関の利便性が高い」（42.3%）「国際交流が盛んである」（41.3%）「研究活動が盛んである」（40.3%）などがあった。

２）地域別

・強みを地域別に確認すると、いずれの地域においても「災害が少なく、安心して暮らせる」、「公害が少ない」の２つが強みとされている。
・また、本庁地区、宝木地区、陽南地区、平石地区、横川地区、雀宮地区では「買い物など日常生活が便利」も上位にあった。
・他には、本庁地区及び横川地区を除く地域では「自然環境が豊か」、「閑静な環境」が共通して高く評価されていた。
・一方で、弱みを地域別にみると、本庁地区、宝木地区、陽南地区、豊郷地区、国本地区、富屋地区、城山地区、姿川地区、雀宮地区では「就業の場に恵まれている」、清原地区、横川地区、瑞穂野地区、篠井地区では「公共交通機関の利便性が高い」、平石地区では「文化活動をする場が豊富」について否定的であり、それぞれ弱みの第１位となっている。

３．宇都宮市の今後の重点項目

１）全体

・市全体の今後の重点項目については、「医療サービスが充実している」（35.4%）、「福祉サービスが充実している」（32.8%）、「中心市街地に活気がある」（29.8%）、「事故や犯罪が少なく、安全である」（27.6%）、「電車・バスなどの公共交通機関の利便性が高い」（23.2%）、「子育ての環境が整っている」（21.0%）、「子どもの教育環境が充実している」（20.8%）があった。

２）年齢別

・年齢別にみると、40 歳代以上の回答者は、「医療サービスが充実している」及び「福祉サービスが充実している」を非常に重視する傾向にあった。

・また、「事故や犯罪が少なく、安心して暮らせる」については、20～24 歳及び 75 歳以上の回答者で重視される傾向にあった。その他、「子育ての環境が整っている」については、30 歳代の回答者において非常に重視されていた。

３）地域別

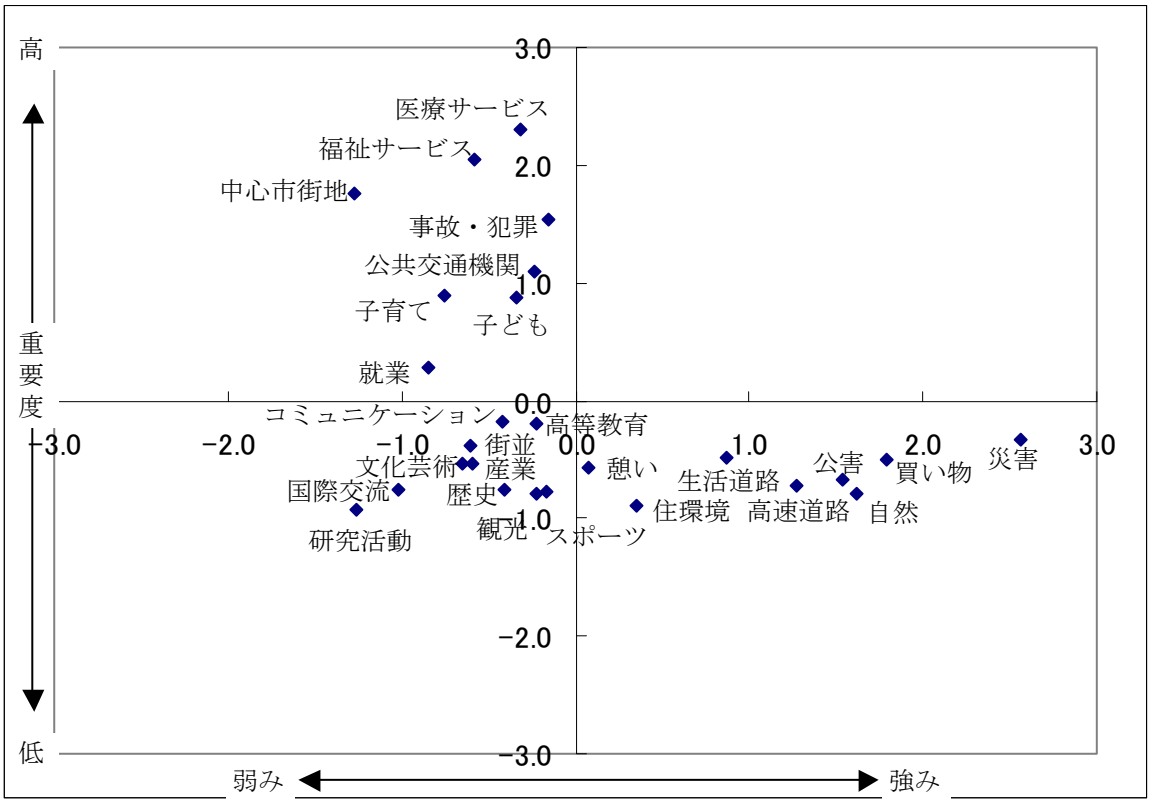
・地域別にみた今後の重点項目に関しては、宝木地区、平石地区、瑞穂野地区、国本地区、富屋地区、篠井地区、城山地区では「医療サービスが充実している」、本庁地区、横川地区、姿川地区、雀宮地区では「福祉サービスが充実している」、陽南地区では「治安がよい」、豊郷地区では「公共交通機関の利便性が高い」、清原地区では「医療サービスが充実している」及び「公共交通機関の利便性が高い」の両者が各々第１位となっている。

４．優先順位の高い領域

・強み・弱みの評価点と、重点項目の評価点の関係性をみることで、優先順位の高い領域を分析した。

・今後、解決の優先順位が高い領域は、重要度が高く、かつ宇都宮市全体として弱みであるとされた問いであると考えられる。散布図からは、こうした領域には、「医療サービスの充実」「福祉サービスの充実」「中心市街地の活気」「事故や犯罪が少ない」「公共交通機関の利便性」「子育ての環境」「子どもの教育環境」「就業の場」が取組の優先度が高いといえる。

強み・弱みと重点項目との相関図



５．公的なサービスの提供のあり方

１）市民の負担と行政サービスの関係

・市民の負担と行政サービスの関係については、「行政サービスの水準が下がるとしても、現状のままの負担でよい」とする回答者が全体の半数（51.7%）を超えた。

２）高齢者の介護のあり方

・高齢者の介護のあり方については、「施設への入所による介護」（58.1%）の選択が過半数であった。

３）公共交通を充実させるために税金を投入することについて

・過半数の回答者が、公共交通を充実させるために税金を「投入すべき」とした。一方で、3 割強の回答者が、「投入すべきではない」とした。

４）学校の配置のあり方

・学校の配置のあり方については、「将来的には、学校の配置を見直し、数を減らしていくべき」（51.6%）とした回答者が、「将来的にも、現在の学校を維持し、数を減らすべきではない」（39.3%）を上回った。

６．協働のまちづくりを進めるうえでの役割分担

・「地域社会の分野」（49.1%）、「スポーツの分野」（36.3%）、「文化の分野」（33.9%）、「青少年の健全育成の分野」（27.0%）、「環境保全の分野」（22.5%）については、2 割以上の回答者が市民主体で実施する領域とした。

・一方、「保健医療の分野」（58.0%）、「障害者福祉の分野」（51.5%）、「国際交流・協力の分野」（49.4%）、「景観保全の分野」（47.8%）、「防犯・防災の分野」（46.6%）、「高齢者福祉の分野」（40.7%）については、4 割以上の回答者が行政主体で実施する領域とした。

７．市民活動

１）市民活動への参加意向

・市民活動への参加意向については、5 割を超える回答者が、「現在、参加している」ないし「今後、参加してみたいと思う」としている。

・実際に参加している割合は、全体の 13.3%である。一方で、39.5%は「参加してみたいとは思わない」としている。

２）参加している市民活動の分野

・市民活動に「現在、参加している」と答えた回答者のうち、参加している分野として多かったのは「地域社会の分野」（43.9%）であった。

・その他、2 割以上の回答を得た分野として、「高齢者福祉の分野」（24.7%）、「環境保全の分野」（21.1%）、「防犯・防災の分野」（20.2%）がある。

３）今後、参加してみたい市民活動の分野

・回答者が多かった分野は、「高齢者福祉の分野」（31.7%）と「環境保全の分野」（31.6%）であった。

４）参加したいと思わない理由

・「参加したいとは思わない」とした回答者について、その理由として「興味がないから」「面倒だと感じるから」といった参加自体に否定的な回答を示した者の割合は合計で 17.4%であった。
・一方で、「時間の都合がつかないから」「身近に活動の場や機会がないから」「活動や団体の情報がないから」と、参加への意欲はあるものの機会に恵まれないとした回答者の割合は、合計で 60.2%であった。

８．行動範囲と交通手段

１）頻度

・「ほぼ毎日」および「週に１、２回」という高い頻度で訪れる区域として、「市内の中心部」（合計で 37.2%）と「市内の郊外」（同じく 42.5%）がある。このように、頻度の観点からは、中心部よりも郊外のほうが高い。
・首都圏および首都圏以外の県外については、「ほとんど行かない」の回答者が最も多い（首都圏で 37.6%、県外（首都圏以外）で 47.3%）。「年に５、６回」の回答者を含めると、7 割から 8 割の回答者が「ほとんど行かない」「年に５、６回」いずれかの問いを選択している。

２）目的

・主な目的として、「市内の中心部」「市内の郊外」については、「仕事、学校」「買い物や食事」を目的とする回答者が、全体の 5 割から 6 割を占める。
・「レジャーや観光」については、「県外（首都圏以外）」（36.5%）「市外（ただし県内）」（34.6%）「首都圏」（23.9%）の順に多い。

３）交通手段

・交通手段としては、「市内の中心部」「市外の郊外」「市外（ただし県外）」については、自家用車の利用が 5 割から 7 割に達する。また、「首都圏」「県外（首都圏以外）」についても、自家用車の利用が一定数ある。特に、「県外（首都圏以外）」については、電車を抜いて、自家用車が最も活用される交通手段である。
・バスの利用は、「市内の中心部」において、11.9%の回答があったが、その他の目的地についてはわずかである。
・電車の利用は、「首都圏」への移動に関しては、42.7%とその活用が高い。

４．アンケート・モニター調査（２）

宇都宮市　首都圏在住者　インターネットアンケート　概要版

１．回収結果

・首都圏在住者を対象に宇都宮市に対するイメージに関して、インターネットを活用したアンケートを実施した。

・インターネットアンケートの対象者は、野村総合研究所が提供するインターネットアンケートサービス「True Navi（トゥルー・ナビ)」の登録者のうち、首都圏在住者（ここでは、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県とする）である。

・同サービスのモニター数は、355,417 人（アンケート実施時点）である。そのうち、本調査対象の首都圏在住者は、全体の 35%を超えている（すなわち、12 万人以上)。

・アンケートは、凡そ 500 の有効サンプルを得ることを目途に、2005 年 10 月 07 日（金）～2005 年 10 月 08 日（土）にかけて実施された。最終的に 563 の有効サンプルを得た。

２．調査回答者の属性

・調査回答者を性別で見ると、男女比はほぼ同じであるが、若干男性が上回っている。

・回答者の年齢層は、30 代及び 40 代が中心的である。

・回答者の職業は、「事務・技術職」と「主婦」とで過半数を占める。

・回答者の居住地域は、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県の順で多い。

・回答者の過半数が宇都宮市へ行ったことはないと答え、3 割が 1 ～2 回と答えている。

３．近隣都市と比較した宇都宮市に対するイメージ

・宇都宮市とその近隣都市のイメージを聞いた。近隣都市として、郡山市、前橋市、水戸市、高崎市が対象となっている。

・近隣都市のイメージと比較するなかで、宇都宮市のイメージとして顕著な点は、「活気がある」という回答の割合が高かった点である（宇都宮市が 20.6%であるのに対して、他市は 3～10%)。

・また、宇都宮市のイメージとして、「庶民的」（宇都宮市：27.2%・他市：19～23%）及び「都会的」（宇都宮市：12.4%・他市：3～9%）と答えた割合も、他の 4 市中で最も高かった。

・宇都宮市と比べて、他市の中で回答が高かったイメージとしては、郡山市の「自然が豊か」(43.0%)及び「のどか」(40.7%)、水戸市の「歴史がある」(49.2%）があった。

４．宇都宮市に対するイメージ

１）直感的なイメージ

・宇都宮市の直感的なイメージとして、「イメージは何もない」（12.8%）の回答以外では、「おいしいものが豊富なまち」（21.5%）、「商業のまち」（14.6%）、「自然が豊かなまち」（8.2%）の順に回答が多かった。

・なお、「その他」（24.0%）のうちほとんどの回答は、「餃子のまち」をイメージすると答えている。

２）詳細のイメージ

・宇都宮市に合致するイメージとして肯定したものとして、「庶民的」（63.8%）、「のどか」（55.4%）、「素朴」（51.9%）、「自然が豊か」（46.9%）、「特色がある」（45.1%）の順に評価が高かった。

・一方で、「おしゃれ」（53.1%）、「都会的」（44.4%）「先進的」（42.1%）、「便利」（36.1%）、「いやされる」（30.4%）の順に合致しないイメージとされた。

５．宇都宮市への訪問目的

・宇都宮市に行ったことがあると答えた回答者のなかで、その訪問目的として多かった回答は、「観光」（30.2%）、「仕事」（25.7%）、そして「外食」（24.5%）であった。

・宇都宮市への未訪問者を含む全ての回答者に対して、想定される宇都宮市への訪問目的を聞いたところ、「観光」（34.1%）と「外食」（30.6%）を答える者が多かった。

・また、「特に行くつもりはない」（20.8%）と答えた回答者も一定数いた。

６．宇都宮市への居住意向

１）居住地を選択する基準

・一般に居住地を選択する基準として、回答者からは、「治安がよい」（58.6%）、「公共交通機関の利便性が高い」（32.7%）、「医療サービスが充実している」（32.7%）ことが条件になるとの声が多く寄せられた。

２）宇都宮市への居住意向

・宇都宮市に「ぜひ住んでみたい」とする回答者は全体の 1.8%、「やや住んでみたい」は 7.6%であった。

・23.4%の回答者は「全く住みたくない」と答え、31.4%が「あまり住みたくない」と答えた。

３）「ぜひ住んでみたい」ないし「やや住んでみたい」と回答した理由

・「ぜひ住んでみたい」ないし「やや住んでみたい」を選んだ回答者（全体の 9.4%）の理由は、順に、「自然環境が豊かであると思うから」（34.0%）、「中心市街地に活気があると思うから」（30.2%）、「良好な住環境が整備されていると思うから」（22.6%）、「公共交通機関の利便性が高いと思うから」（22.6%）、「治安がよいと思うから」（20.8%）であった。

４）「全く住みたくない」ないし「あまり住みたくない」と回答した理由

・「全く住みたくない」ないし「あまり住みたくない」を選んだ回答者（全体の 54.8%）の理由は、順に、「公共交通機関の利便性が低いと思うから」（45.0%）がとりわけ多く、次いで「就業の場が豊富でないと思うから」（21.4%）、「中心市街地に活気がないと思うから」（17.8%）、「治安が悪いと思うから」（12.0%）であった。
・「その他」を選んだ回答者も 22.6%と多くいたが、その理由の多くは、宇都宮市はなじみがない土地であることを述べる、ないしは、宇都宮市は東京からは遠いことを挙げていた。

４．アンケート・モニター調査（３）くちこみくちコミ特派員アンケート　集計結果

１．回収結果

・宇都宮市くちコミ特派員 20 名から回答を得た。
・調査回答者を性別で見ると、男性が 45%（9 名）であるのに対して、女性は 55%（11 名）であった。
・年齢別で見ると、40 代及び 50 代が他の世代よりも多い。なお、20 代は 1 名、30 代は 2 名である。
・回答者の職業は、主婦が最も多く、次いで、事務・技術職、自営業・サービス業従事者である。
・全ての回答者が首都圏に在住している。そのうち東京都と神奈川県の居住者がそれぞれ 45%（9 名づつ）、千葉県の居住者が 1 名である。

２．宇都宮市への来訪の状況

１）過去３年間の宇都宮市への来訪回数

・回答者の 7 割（14 名）が過去 3 年間に 10 回以上宇都宮市を訪れていると回答している。
・宇都宮市に訪れたことがない回答者はいない。

２）宇都宮市への来訪目的

・宇都宮市への来訪目的として、「知人・友人等がいるから」を選択した回答者が最も多かった。次いで、「観光」、「イベント・祭り」、「文化・芸術」が挙げられた。

３．現在の宇都宮市のイメージ

１）宇都宮市へのイメージとして肯定されているもの

・宇都宮市のイメージとして肯定した評価として、「のどか」（全体の 85.0%）「庶民的」（80.0%）「素朴」（75.0%）の順に評価が高かった。
・その他、宇都宮市のイメージとして肯定した評価が 50%以上であった回答は、「便利」（60.0%）「いやされる」（60.0%）「楽しい」（55.0%）「特色がある」（55.0%）といった問いであった。

２）宇都宮市へのイメージとして否定されているもの

・一方で、宇都宮市のイメージとして否定した評価には、「先進的」（全体の 65.0%）「近代的」（50.0%）「おしゃれ」（45.0%）「活気がある」（45.0%）「都会的」（40.0%）「特色がある」（35.0%）「文化的」（30.0%）といった問いがあった。

４．宇都宮市へのイメージに関する自由記入

・自由記入欄で回答された宇都宮市へのイメージは、主に「街」「都市基盤」「観光」「環境」「住民」の分野に関するものであった。

１）街に関するイメージ

・街に関するイメージはプラスの印象が大半を占めた。
・一方で、中途半端に都会化しているため、魅力が失われているという指摘もあった。

２）都市基盤に関するイメージ

・中心市街地の衰退、市内公共交通の不便さに関して指摘する回答が多かった。
・坂が少なく平地が多いこと、また地震が少ないことなどから、「中高年に焦点を当てたまちづくりを進めれば、中高年の移住者を集められるのではないか」という提案があった。

３）観光に関するイメージ

・餃子、ジャズ、大谷石、カクテルに関する回答が複数あった。
・一方で、目玉がない、PR 不足といった指摘もあった。

４）環境に関するイメージ

・自然に恵まれているという評価がある一方、都市開発により「昔からの良い風土」が失われてしまうのではという意見があった。

５）住民に関するイメージ

・住民に関して、「保守的」「庶民的」「のびのびしている」といったイメージが回答された。

５．力を入れるべき宇都宮市の強み

１）文化面（歴史・文化・芸術・スポーツ・観光・国際交流等）

・歴史、文化・芸術、スポーツ、観光の各分野で力を入れるべき強みが指摘された。これらの分野に共通する指摘として、宇都宮市の魅力を積極的に対外に発信していくべきであるという点が多く述べられていた。
・また、ジャズ・石の街などの観光資源をうまく育て、より魅力のある街にして欲しいという要望も複数見られた。

２）インフラ及び経済面（道路・鉄道・経済等）

・県外、特に首都圏からの公共交通の利便性は高いものの、市内の公共交通については不便であるという指摘が多かった。

３）子育て、教育及び福祉面

・「地域における子育て」など、子育て、教育及び福祉の面で、力を入れるべき強みに関する幅広い指摘があった。

４）生活面（コミュニティ・景観・環境・レジャー・住環境等）

・自然環境保護の促進に関する回答が多かった。

６．改善するべき宇都宮市の弱み

１）文化面（歴史・文化・芸術・スポーツ・観光・国際交流等）

・観光に関して、PR の不足・観光資源の整備の不足を指摘しているものが目立った。

２）インフラ及び経済面（道路・鉄道・経済等）

・インフラに関しては、一定の評価もあったが、市内公共交通の改善に関する記述が多かった。

・経済面では、中心市街地の活性化に言及する回答が多かった。

３）子育て、教育及び福祉面

・子供達の遊べる屋内スペースを求める声が多かった。

４）生活面（コミュニティ・景観・環境・レジャー・住環境等）

・宇都宮市が元来持つ特徴（自然環境など）を、維持・強化することを求める意見が多く寄せられた。

７．自由記入（宇都宮市のまちづくりに関する意見・提案）

・回答者に対して、宇都宮市のまちづくりに関する意見・提案について自由記入を求めた。

・自由記入の内容は、概ね「観光」「交通」「経済」「住環境」の 4 つの分野に渡った。

１）観光

・「石の街のイメージ作り」に関しては、肯定的な意見が多かった。今後「石の街」の観光資源としての魅力を高めていけば宇都宮は「倉敷や川越くらいの観光地になる」という意見があった。

・「ジャズの街」に関する言及も複数あったが、より魅力的な観光資源にしていくには、「まずはミュージシャンが集まってくる街にならなければ無理」という意見があった。

・また、「ジャズや、カクテルのように都会的なものは、観光客として呼びこみたい都会の人間には魅力的に映らないのではないか」という指摘がある。すなわち、都会では得ることの出来ない個性が魅力になるという認識が示されていた。

２）交通

・市内の公共交通の便が悪いとの指摘が多くなされた。

３）経済

・中心市街地の衰退に関する指摘が複数あった。

４）住環境

・「特徴のある昔からの持ち味」を活かした「若者も郷土と誇れる町」となることを希望する意見があった。

・また、宇都宮市の現状については、「東京と同じような街づくり」「都会の真似」という認識を示す指摘もあった。

・この他、宇都宮市の街づくりは、「住みやすい町を目指してするべき」という意見があった。

以上